

農山村における創業の現状と地域とのかかわり

（和歌山県紀美野町におけるアンケート調査報告）

1. アンケート調査の結果からみた創業の全体像
2. 農山村における移住者の創業についての考察

2024年3月

和歌山大学 食農総合研究教育センター

農山村における創業の現状と地域とのかかわり

(和歌山県紀美野町におけるアンケート調査報告)

1. アンケート調査の結果からみた創業の全体像
2. 農山村における移住者の創業についての考察

2024年3月

和歌山大学 食農総合研究教育センター

はじめに

最近、都市から農山村へ移住する「田園回帰」や人口減少や高齢化で停滞する地域活動をサポートする「関係人口」などにおいて、農山村へ向けられるまなざしが若者の間にもみられるようになってきた。価値観やライフスタイルの変化とともに、IT・テレワークの普及により働き方も多様化しており、田園回帰した若者は、さまざまな仕事をなりわいにして暮らしている。また、増加傾向にある「地域おこし協力隊」は、3年を任期として過疎地域等で活動する関係人口である。2022年度の状況をみると、隊員数は6,800人に達し、年齢は40歳未満の若者世代が69%である。さらに任期を終了した協力隊の65%が活動した地域に定住しており、仕事をみると42%が創業、12%が農林業への就業である。

2015年に始まった地方創生政策では、都市から地方への新しい人の流れをつくることが国と地方の共通課題となり、地方の自治体では移住者の相談窓口の設置や補助金の増設など移住支援事業が本格化した。和歌山県においては全国的にも早い時期から官民連携した移住支援の取組が始まっており、紀美野町では2006年に「きみの定住を支援する会」が発足し、役場の担当職員（ワンストップパーソン）と連携して移住支援を行ってきた。このような取組が功を奏し、町内にはIターン移住者が増加しており、自ら創業した自営業や農業に就く移住者も62%となっている。

本調査は、現在の田園回帰の動向において「創業」が農山村における仕事の選択肢になってきていることから、移住者により創業が増加する紀美野町を事例に「農山村における創業の現状と地域とのかかわり」を研究することを目的に行った。本資料が、農山村で暮らしたいと希望する若者や移住者のなりわい創りや行政の支援策検討の参考になれば幸いである。

最後に、本アンケートに御協力いただいた紀美野町産業課および紀美野町観光協会の皆様、紀美野町まちづくり課およびNPO法人きみの定住を支援する会の皆様に改めて感謝を申し上げます。

2024年3月

和歌山大学食農総合研究教育センター

特任教員 阪井 加寿子

目 次

I	調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	調査結果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	2
III	調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・	5
III.1	アンケート調査の結果からみた創業の全体像・・・・・・・・	5
III.2	農山村における移住者の創業についての考察・・・・・・・・	16
	資料／紀美野町なりわい創業実態調査アンケート・・・・・・・・	21

I 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、紀美野町産業課および紀美野町観光協会、紀美野町まちづくり課およびNPO 法人きみの定住を支援する会の協力を得て農村における創業（起業・継業）の現状や地域とのかかわりについて実態調査を行い、以て農村で暮らしたいと希望する若者らの「なりわい」創りや行政の支援策の検討に資することを目的に実施した。

(2) 調査対象

紀美野町観光協会会員、およびNPO 法人きみの定住を支援する会会員の創業者

(3) 調査期間

2023 年 5 月～7 月

(4) 調査方法

郵送により調査票を配布し、郵送により回収した。

(5) 回収率

77.8%（配布数：45 件、回収数：35 件）

(6) 調査内容

創業者の属性、開業時の状況、現在の事業運営、創業の満足度・地域とのかかわりなど

(7) 分析方法・表示方法

- ・分析については、紀美野町における創業の傾向を把握するために、Ⅲ.1 アンケート調査の結果からみた創業の全体像を示した。
- ・また、Ⅲ.2 農山村における移住者の創業についての考察において、移住者の創業が増加している当地域の特徴を考察した。
- ・Ⅲ.2 については、紀美野町における移住者の創業の「開業時の状況」を、日本政策金融公庫総合研究所が毎年実施している「新規開業実態調査」と比較し全国的な傾向の中で分析した。また、本調査結果の「現在の事業運営」及び「創業の満足度・地域とのかかわり」について、I ターン事業者とU ターン事業者を比較して分析を行った。
- ・各質問は無回答を除いた数値を母数として n 値で示し、集計した結果を構成比（%）で示している。
- ・集計結果の数値は、四捨五入を行っている関係で、合計が 100% に一致しない場合がある。
- ・本稿において「創業」とは、法人の設立（法人企業）、開業届の提出（個人企業）の行為とした。なお、Ⅲ.2 農山村における移住者の創業についての考察においては、全国調査との比較に際して要件の統一を図るため、農業だけによる創業は除外した。
- ・分析にあたり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJ データアーカイブから「新規開業実態調査」（日本政策金融公庫総合研究所）個票データの提供を受けた。

Ⅱ 調査結果の概要

Ⅰ. 1 アンケート調査の結果からみた創業の全体像

1. 開業時の年齢は、40 歳未満の若い世代の創業は 37.1%であるが、50 歳以上の高齢世代の創業も 40%であり、若い世代だけでなく高齢世代の創業も一定程度ある。
2. 開業業種は、飲食業・宿泊業など「食」に関する開業の割合が高い。また、業種を兼業して創業している事業者もみられる。
3. 個人事業主としての創業が多い。
4. 開業からの期間は、15 年未満が 74.3%である。紀美野町が 2006 年に移住・定住促進事業を開始してから 18 年が経過しており、事業開始以降の創業が多い。
5. 創業者の出身地をみると、I ターン（県内・県外）と U ターンで、85.6%を占める。
6. 開業動機は、「自由に仕事がしたかった」が 51.4%で最も多い。
7. 開業費用は、500 万円未満が 65.7%で、比較的小規模な創業が多い。
8. 開業時の平均従業者数（本人含む）は、2.8 人である。
9. 開業時の事業運営で苦労したことは、「顧客・販路の開拓」及び「資金繰り、資金調達」38.2%、「財務・税務・法務に関する知識不足」23.5%などである。
10. 現在の事業規模（2022 年売上高）は、「100～500 万円未満」が 42.4%で最も多いが、「1000 万円以上」も 33.3%ある。
11. 現在の平均従業者数（本人含む）は、4.0 人で、開業時よりも雇用者が増加している。
12. 事業収入が経営者本人の定期的な収入に占める割合が「50%未満」の事業者は 50%であり、主たる収入を他から得て、創業した事業を兼業している。事業以外の収入としては、勤労収入・年金などである。
13. 現在の事業運営で苦労していることは、「顧客・販路の開拓」32.4%、「資金繰り、資金調達」23.5%、「従業員の確保」20.6%などである。
14. 他の事業者からの事業承継について、35.5%の事業者が関心を持っている。

15. 創業してよかったことは、「仕事の経験・知識や資格を生かした」、「自分の技術やアイデアを試せた」「自分の趣味や特技を生かした」が 57.1%で最も多く、続いて「自由に仕事できた」45.7%である。
16. 創業に満足（かなり満足・やや満足）している事業者は、74.3%が多い。
17. 今後の事業について、拡大したい事業者と現状維持・縮小したい事業者は、同数である。
18. 地域資源（地域の農産物や自然の水、間伐材や自然環境など）を利用している事業者は、62.9%いる。
19. 事業による地域との関係について、事業により地域のPRができたと考える事業者が 62.9%で最も多く、続いて、集客により地域への来訪者の増加が 57.1%である。また、地域内での取引関係ができた事業者は、48.6%である。
20. 事業を始めたことにより地域への愛着や想いが強まった（強まった・やや強まった）事業者は、62.8%いる。
21. 事業を始めたことにより関係人口（地域外の人との定期的なつながりやネットワーク）ができた事業者は、約 7 割が多い。

Ⅱ. 2 農山村における移住者の創業についての考察

1. 開業時の年齢をみると、年齢が 50 歳以上は、紀美野町が 44.8%で、全国の 24.5%に比べて多く、紀美野町は全国的にみて高齢世代の移住者の創業が多い。これは、約 8 割を占める I ターン创业者の約半数が 50 歳以上で創業しているためである。
2. 移住者の創業の開業時の経営形態をみると、個人企業は、紀美野町が 79.3%で全国の 61.7%に比べて多く、紀美野町は全国的にみて法人化せず個人事業主として創業する割合が多い。
3. 移住者の創業の開業費用をみると、500 万円未満は、紀美野町は 62.1%で全国の 37.8%に比べて多く、紀美野町は全国的にみて小規模な創業が多い。
4. 移住者の創業の開業時における 1 週間当たりの従業時間数をみると、35 時間未満は、紀美野町が 44.4%で、全国の 15.4%に比べて多く、50 時間以上は 29.6%で、全国の 55.8%に比べて少ない。紀美野町の移住者の創業は全国的にみて短時間労働の創業が多く、長時間労働の創業が少ない。

5. 移住者の開業業種をみると、紀美野町は、全国に比べ「飲食業・宿泊業」が多く、「食」と関連が深い飲食店・宿泊業や食品製造業の創業が多くなっていると推測される。
6. 開業動機について、全国と紀美野町の移住者の創業は、両者とも仕事の自由度やこれまでの経験・知識や資格を生かすことを重視しているが、紀美野町における移住者の創業は、全国と比較すると、収入の増加を求めることよりも時間や気持ちのゆとりを重視し、移住者がこれまで培ってきた経験や技術などに加え、趣味や特技も生かした幅広い自己実現を目指したものである。
7. 現在の平均従業者数（本人含む）は、Iターン事業者は2.8人から4.0人に、Uターン事業者は3.0人から4.5人に、両者とも開業時から1.5倍に増加し、雇用者を増やしている。
8. 現在の事業規模をみると、創業した移住者の約6割が、売上高500万円未満の小規模な経営を行っている。一方、約3割の事業者は1千万円以上の売上がある。
9. 創業した移住者の事業収入が経営者本人の定期的収入に占める割合をみると、約半数（Uターン事業者は66.7%）が、創業した事業の収入よりも、事業以外の収入が多くなっており、兼業で収入を得ている様子がみえる。
10. Uターン事業者は、Iターン事業者よりも事業の拡大指向がある。高齢世代の創業が多いIターン事業者の内訳をみると、半数以上が現状維持や事業の縮小を指向している。
11. 創業に対する評価について、満足していると回答した事業者は、Iターン事業者は73.9%でUターン事業者は66.7%である。
12. 創業と地域との関係性の構築について地域資源の利用からみると、Iターン事業者とUターン事業者は両者とも6割以上が地域資源を利用している。
13. 事業による地域への影響などについては、Uターン事業者は集客により地域に来訪者が増加したことを、Iターン事業者は事業をすることで地域のPRができたことを評価している。
14. Uターン事業者の83.3%は、事業による地域外の人とのネットワークの構築ができたと感じている。
15. 創業してよかったことについて、Iターン事業者とUターン事業者は、仕事の経験・知識や資格、趣味や特技を生かし、また自分の技術やアイデアを試すなど幅広い自己実現ができたことを評価している。Uターン事業者は、さらに、創業により地域や社会に役立つという充実感があること、農村の地域資源を生かしたことを、Iターン事業者よりも評価している。

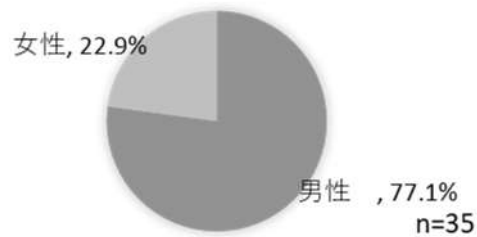
Ⅲ 調査結果

Ⅲ. 1 アンケート調査の結果からみた創業の全体像

Ⅲ. 1. 1 回答者の属性

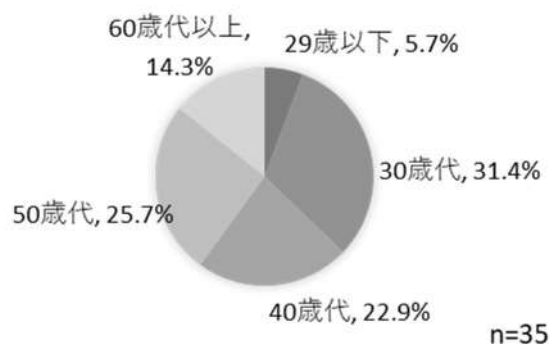
(1) 性別

約 8 割が男性、約 2 割が女性である。



(2) 開業時の年齢

開業時の年齢は、各年代に分散しており、40 歳未満の若い世代の創業は 37.1%、40 歳代の創業は 22.9%、50 歳以上の高齢世代の創業は 40%である。



(3) 開業業種

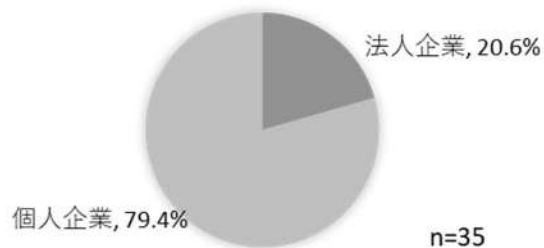
開業業種は、飲食業・宿泊業が約 4 割で最も多く、製造業にも食品製造業が含まれるなど、「食」に関する開業が多い。また「その他」をみると、業種を兼業して創業している様子が見られる。

n=35	
開業業種	割合
飲食店・宿泊業	42.9%
サービス業	14.3%
製造業	11.4%
情報通信業	2.9%
小売業	2.9%
農林業	2.9%
その他	22.9%

その他：建設業と製造業(1)、建設業と農林業(1)、製造業と飲食店・宿泊業と農林業(1)、製造業と農林業(2)、飲食店・宿泊業とサービス(1)、小売業と飲食店・宿泊業(1)、飲食店・宿泊業と農林業(1)の兼業である。(()内は創業者数)

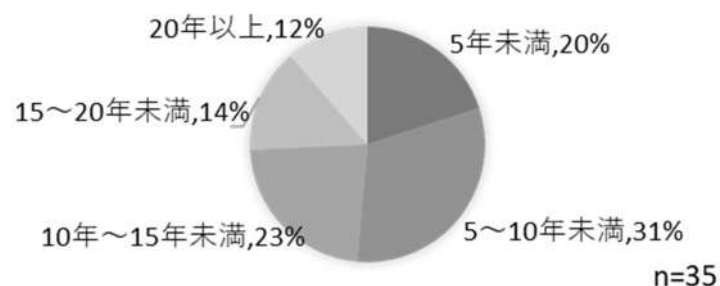
(4) 経営形態

経営形態は個人企業が79.4%で、法人化せず個人事業主として創業する割合が多い。



(5) 開業からの期間

開業からの期間は、5年未満が20%、5～10年未満が31%、10～15年未満が23%で、創業して15年未満が74.3%であり、紀美野町が2006年に移住・定住促進事業を開始してからの創業が多い。



(6) 出身地

出身地をみると、Iターン（県内・県外）が68.5%で多く、Uターンが17.1%、町内に定住が14.3%である。



Ⅲ. 1.2 開業時の状況

(7) 開業動機

開業動機は、「自由に仕事をしたかった」が 51.4%で最も多い。次に「自分の技術やアイデアを事業化したかった」、「仕事の経験・知識や資格を生かしたかった」が 34.0%であり、「時間や気持ちにゆとりが欲しかった」31.4%、「趣味や特技を生かしたかった」28.6%、「農村の環境を生かしたかった」25.7%が続く。

開業動機（複数回答）	n=35
自由に仕事をしたかった	51.4%
自分の技術やアイデアを事業化したかった	34.3%
仕事の経験・知識や資格を生かしたかった	34.3%
時間や気持ちにゆとりが欲しかった	31.4%
趣味や特技を生かしたかった	28.6%
農村の環境を生かしたかった	25.7%
事業経営という仕事をしたかった	22.9%
地域や社会の役に立つ仕事をしたかった	22.9%
農村の地域資源を生かしたかった	17.1%
収入を増やしたかった	14.3%
農業に関係する仕事をしたかった	11.4%
年齢や性別に関係なく仕事をしたかった	5.7%
家業または他の人の事業を引き継いだ	2.9%
就職を希望したが適当な勤め先がなかった	2.9%
その他（ ）	2.9%

その他：高齢になっても続けられる仕事をしたかった

(8) 紀美野町で開業しようと思った理由（自由回答）

- ・生まれ育った町だから
- ・居住地であり、地域の活性化に貢献したかった
- ・大好きな地元がたくさんの方が来てくれたらうれしく、そのきっかけになればと思って
- ・父の育った家を守り、都会の人に紀美野町の自然を伝えたかった
- ・地元で、その当時（S52 頃）は仕事をしたかった
- ・地元で働いてみたい
- ・実家の近くだから
- ・本業があったため、近くで営業した
- ・母から事業を引き継いだ
- ・個人店が元気、空港、大阪に近い
- ・地場産業だから
- ・自然が豊か
- ・販売先（大阪）までの所要時間が適していた
- ・豊かな自然、大阪との距離感
- ・自然豊かで四季がはっきりしていて静かなところ
- ・事業に適した場所があり、マーケットもあると判断したため
- ・環境が良い
- ・移住先を紀美野町に決めたので結果的に

- ・自然の美しさと利便性、先行事業者の成功例
- ・親名義の畑が町内にあった
- ・都会より田舎の方が出費をおさえられるから開業も可能と思った
- ・理由はないが自然とそうなった
- ・大阪にも近く、ほどほどの田舎であること
- ・もともとは大阪心斎橋で店を営んでいたが、所有していた紀美野町の山でとれる湧き水がとても美味しく事業に適していたため、大阪の店をたたみ、紀美野町へ移住したうえで事業（ネットショップ）を始めた
- ・自然栽培に適していて林業もできると思ったから
- ・移住者を積極的に受け入れていることや大阪から比較的近かったから
- ・家族の関係で、偶然紀美野町で開業した
- ・小学生・インバウンドの受け入れをされていたのと、購入した家が2棟あったため、1棟を宿に利用
- ・地域の人たちが快く山の水を使わせてくれた
- ・都会での開業が資金的に難しかった（仕事場の賃貸料が高い）。大阪と1時間30分～2時間で行き来できる（子供たち家族との交流を考えて）
- ・紀美野町に暮らすことにしたので

(9) 開業直前の職業

開業直前の職業は企業や団体の正社員・正職員が、5割を占める。

開業直前の職業	n=34
正社員・正職員（管理職以外）	26.5%
正社員・正職員（管理職）	23.5%
非正社員	14.7%
会社や団体の常勤役員	8.8%
学生	2.9%
その他（ ）	23.5%

その他：自営業3、農業(酪農)1、再雇用1、ピアニスト、法人代表

(10) 開業費用

開業費用は500万円未満が65.7%で最も多く、比較的小規模な創業が多い。

開業費用	n=35
250万円未満	40.0%
250～500万円未満	25.7%
500～1000万円未満	22.9%
1000万円以上	11.4%

(11) 開業時の従業時間数（1週間あたりの事業に充てる労働時間（1時間未満は切り上げ））

開業時の従業時間数は、35時間未満／週は36.4%であるが、50時間以上も36.4%あり、短時間労働と長時間労働の創業が存在する。

開業時の従業時間数	n=33
35時間未満／週	36.4%
35～50時間未満／週	27.3%
50時間以上／週	36.4%

(12) 開業時の従業者数（本人含む）

34 件の創業における開業時の従業者数（本人含む）は、96 人（雇用者 62 人）であり、新しい雇用が創出されている。開業時の平均従業者数は、2.8 人である。

なお、雇用者 0 人が 26.5%、1 人が 32.4%、2 人が 14.7%で、雇用者数をみても比較的小規模に創業している。

(13) 開業時の事業運営で苦労したこと（複数回答）

開業時の事業運営で苦労したことは、「顧客・販路の開拓」及び「資金繰り、資金調達」が 38.2%、続いて、「財務・税務・法務に関する知識不足」が 23.5%である。

開業時の事業運営で苦労したこと（複数回答）	n=34
顧客・販路の開拓	38.2%
資金繰り、資金調達	38.2%
財務・税務・法務に関する知識不足	23.5%
従業員の確保	11.8%
特にない	11.8%
仕入先・外注先の確保	5.9%
その他（ ）	8.8%

その他：コロナ対応、補場の確保、飲食業未経験・経験不足、農業技術の習得・農業インフラ整備

Ⅲ. 1. 3 現在の事業運営

(14) 現在の事業規模

現在の事業規模（2022 年売上高）は、「100～500 万円未満」が最も多く 42.4%、続いて「1000 万円以上」が 33.3%である。

現在の事業規模（2022年売上高）	n=33
100万円未満	15.2%
100～500万円未満	42.4%
500～1000万円未満	9.1%
1000万円以上	33.3%

(15) 現在の従業時間数

現在の従業時間数は、35 時間未満／週は 29.4%で、開業時と比べると 7 ポイント増加している。

現在の従業時間数	n=34
35時間未満／週	29.4%
35～50時間未満／週	35.3%
50時間以上／週	35.3%

(16) 現在の従業者数（本人含む）

34 件の創業における現在の就業者数（本人含む）は 137 人（雇用者 103 人）であり、開業時よりも雇用者が増加している。現在の平均従業者数は、4.0 人である。

なお、雇用者 0 人が 17.6%で、創業時から 8.9 ポイント減少している。

(17) 事業収入が経営者本人の定期的な収入に占める割合

事業収入が経営者本人の定期的な収入に占める割合が「50%未満」の事業者は 50%であり、主たる収入を他から得て、創業した事業を兼業している。事業収入が「100%」を占める経営者は 32.4%である。

事業収入が経営者本人の定期的な収入に占める割合	n=34
25%未満	32.4%
25～50%未満	17.6%
50～75%未満	5.9%
75～100%未満	11.8%
100%	32.4%

(18) 事業収入以外の収入（複数回答）

創業した事業以外の収入は「勤労収入」が 63.6%で最も多く、続いて「年金収入」が 27.3%である。

事業収入以外の収入（複数回答）	n=22
勤労収入	63.6%
年金	27.3%
不動産収入	9.1%
その他（ ）	9.1%

その他：建設業、農業

(19) 事業からの収入が、世帯収入に占める割合

事業収入が世帯収入に占める割合が「50%未満」の事業者は 46.9%であり、世帯全体でも創業した事業と他の仕事との兼業がみられる。事業収入が「100%」を占める経営者は 28.1%である。

事業からの収入が、世帯収入に占める割合	n=32
25%未満	31.3%
25～50%未満	15.6%
50～75%未満	15.6%
75～100%未満	9.4%
100%	28.1%

(20) 現在の事業運営で苦労していること（複数回答）

現在の事業運営で苦労していることは、「顧客・販路開拓」が 32.4%で最も多く、続いて「資金繰り、資金調達」が 23.5%、「従業員の確保」が 20.6%である。

現在の事業運営で苦労していること（複数回答）	n=34
顧客・販路の開拓	32.4%
資金繰り、資金調達	23.5%
従業員の確保	20.6%
財務・税務・法務に関する知識不足	14.7%
仕入先・外注先の確保	5.9%
その他（ ）	11.8%
特になし	23.5%

その他：提供サービス内容、体力、水・圃場確保、本業である農業が厳しい

(21) 事業への IT（情報技術）の活用（複数回答）

事業への IT の活用については、「広報活動」が 65.6%で最も多く、続いて「経理処理」が 46.9%、「取引（販売・購入）」が 31.3%である。

事業へのIT（情報技術）の活用（複数回答）	n=32
広報活動	65.6%
経理処理	46.9%
取引（販売）	31.3%
取引（購入）	31.3%
求人活動	3.1%
その他（ ）	12.5%

(22) 今後、他の事業者からの「事業承継」への関心

他の事業者からの事業承継に「関心がある」のは、35.5%である。

今後、他の事業者からの「事業承継」への関心	n=31
関心がある（ ）	35.5%
関心がない	64.5%

関心がある理由：収益性がある案件であれば引き継ぎたい

今後何年かの間に引き継ぎたい。同事業でなくてもよい

要望があれば考えてもよい

農地拡大と法人化

Ⅱ.1.4 起業（継業）の満足度・地域とのかかわり

(23) 起業（継業）してよかったこと（複数回答）

創業してよかったことは、「仕事の経験・知識や資格を生かした」、「自分の技術やアイデアを試せた」「自分の趣味や特技を生かした」が 57.1%で最も多く、続いて「自由に仕事ができる」45.7%である。

起業（継業）してよかったこと（複数回答）	n=35
仕事の経験・知識や資格を生かした	57.1%
自分の技術やアイデアを試せた	57.1%
自分の趣味や特技を生かした	57.1%
自由に仕事ができる	45.7%
事業を始めて家族（地域）との絆が深まった	37.1%
地域や社会に役立つという充実感がある	37.1%
期待したような事業経営ができた	28.6%
就職するよりもよかったと感じる	28.6%
農村の地域資源を生かした	28.6%
時間や気持ちにゆとりができた	25.7%
農村の環境を生かした	25.7%
農業が楽しくできている	20.0%
収入が予想通り増えた	8.6%
年齢や性別に関係なく仕事ができる	8.6%
その他（ ）	0.0%

(24) 起業（継業）についての総合的な満足度

創業に満足（かなり満足・やや満足）しているのは、74.3%で多い。

起業（継業）についての総合的な満足度	n=35
かなり満足	42.9%
やや満足	31.4%
どちらともいえない	14.3%
やや不満	11.4%
不満	0.0%

理由：毎日楽しい

まだまだ集客はこれからだけど楽しみがいっぱいで、今も充実しているから
自由、自分の意志で決められるのが良い

継続的な投資による生産性の改善により、事業が安定してきたため
毎日が充実している

地域との関係が深くなった

自然の中で自由に仕事ができる。人とのつながりができた。

起業無くして経済的自由はない

やりたいことに取り組んで喜んでくれる人がいて、毎日充実している

忙しくも毎日充実した日々を過ごしている。

自然が多くてのびのび仕事ができる。収入が少なくても何とかやってこられた。

総論満足、各論やや不満（未達）的な状況

まだ技術的に足りていないことが多いため
 自由にできる時間の確保が課題
 身体が厳しくなってきた
 収入にまだ結びついていない
 経営方針が少し甘かった
 まだまだ

(25) 今後の方針

今後の方針は、「拡大したい」と「現状維持・縮小」がそれぞれ 50%と同数である。

今後の方針	n=34
拡大したい	50.0%
現状維持でよい	41.2%
縮小したい	8.8%

理由：駆け出しの状態なので拡大していきたい

内容を充実させたい

やってみたいことがたくさんある

楽しく過ごしたいから

事業の方向性と人生のやりたいことが合ってきているので拡大するのが楽しみにつながる

田舎を伝える選択肢を増やしたい。宿泊、体験等

地域づくりのコミュニティに参加し忙しい日々、手伝ってくれる人がいれば拡大したい

資金調達が可能なら拡大したい

収入が安定している状態を維持したい。大きくしたいと思わない

可もなく不可もなく、地域貢献が商いの基本

コロナの影響があるが、当初計画よりも売上が少ない

心臓の手術をしたので、ぼちぼち頑張りたい

高齢なので後進があれば譲りたい

身体が厳しくなってきた

方向を変えたい

(26) 事業への地域資源の利用

「地域資源を利用している」のは 62.9%で、半数以上が地域の農産物や自然の水、間伐材や自然環境などを利用している。また、利用していないが、今後利用したいと考える事業者も 11.4%いる。

事業への地域資源（農林水産物など）の利用	n=35
利用している（ ）	62.9%
利用していないが、今後利用したい	11.4%
どちらともいえない	20.0%
その他（ ）	5.7%

利用している地域資源：みかん、ぶどう、イチゴ、レモン

栗、カボチャ、レモン

野菜

農産物、魚
 自家栽培や地区栽培のものの利用
 畑があり、野菜などを作り提供している。
 地元産のお米、自家製の野菜、和歌山市で釣った魚など
 6次産業化を進めている。規格外農産物の利用
 地域の食材
 人・自然
 山の水
 川の水
 山、川。自然、環境
 間伐材の利用

(27) 事業による地域との関係

「事業により地域のPRができた」が62.9%で最も多く、続いて「集客により地域への来訪者の増加」が57.1%である。また、「地域内での取引関係」は48.6%である。

事業による地域との関係（複数回答）	n=35
事業をすることで地域のPRができた	62.9%
集客により地域への来訪者が増えた	57.1%
地域の人と取引関係ができた	48.6%
その他（ ）	2.9%

(28) 事業を始めたことによる地域への愛着や想いの変化

事業を始めたことにより地域への愛着や想いが強まった（強まった・やや強まった）のは、62.8%である。

地域への愛着や想いの変化	n=35
強まった	51.4%
やや強まった	11.4%
どちらともいえない	14.3%
変わらない	22.9%

強まった理由：地元の良さに気づいた

この自然を守りたい、再生したい
 紀美野町の資源をもっと多くの方に知ってもらいたい
 近所の人たちもよい人が多く、自分にはふるさとがないので
 もともと有難く思っている

(29) 事業を始めたことにより地域外の人との定期的なつながりやネットワークの創出

事業により関係人口（地域外の人との定期的なつながりやネットワーク）ができたのは、69.7%が多い。

事業を始めたことにより地域外の人との関係構築	n=33
できた（注：単なる商取引は除く）	69.7%
できていない	30.3%

内容：イベントに呼んでもらったり、出張させてもらったりのチャンスが増えたから
年に数回イベント等に出展
料理教室（出張食堂）で大阪・神戸に行って、お客さんや生徒さんとのつながりが広がった
全国の手仕事の会・グループの会員になった（今はゆるやかなつながり）
県外の出張先でコミュニティに参加したことで現在も情報交換している
体験イベントの効率的な運営の仕方などノウハウの交流ができている
店を始めたことで、知らない方たちとつながることができた
紹介でご来店される方も多い
一度宿泊したらリピーターで何度も来てもらえるお客様が増えた
宿泊した顧客が翌年も利用してくれ、その顧客の紹介でまた別の顧客が利用してくれる
宿泊のリピーター、及び友達を連れてきてくれる。他の方にも PR をしてくれている
同業や同様業の方とのつながり
経営者同士のつながり
農家仲間とのネットワークができた。
まちづくり推進協議会参加、小川地域棚田振興協議会参加
棚田の再生に関わることになった。県外からの移住希望者の窓口になっている。

Ⅲ. 2 農山村における移住者の創業についての考察

Ⅲ. 2. 1 紀美野町における移住者の創業の開業時の実態と全国の状況

(1) 開業時における移住者の創業の実態

- ・開業時の年齢をみると、年齢が 50 歳以上は、紀美野町が 44.8% で、全国の 24.5% に比べて多く、紀美野町は全国的にみて高齢世代の創業が多い。これは、約 8 割を占める I ターン創業者の約半数が 50 歳以上で創業しているためである。
- ・開業時の経営形態をみると、個人企業は、紀美野町が 79.3% で全国の 61.7% に比べて多く、紀美野町は全国的にみて法人化せず個人事業主として創業する割合が多い。
- ・開業費用をみると、500 万円未満は、紀美野町は 62.1% で全国の 37.8% に比べて多く、紀美野町は全国的にみて小規模な創業が多い。
- ・開業時における 1 週間当たりの従業員数数をみると、35 時間未満は、紀美野町が 44.4% で、全国の 15.4% に比べて多く、50 時間以上は 29.6% で、全国の 55.8% に比べて少なく、紀美野町は全国的にみて短時間労働の創業が多く、長時間労働の創業が少ない。

表Ⅱ. 1 開業時における移住者の創業の実態

		紀美野町	全国	検定
性別	男性	75.9%	82.9%	
	女性	24.1%	17.1%	
開業時の年齢				
紀美野町n=29 全国n=21,763	29歳以下	0.0%	7.3%	
	30歳代	34.5%	36.1%	
	40歳代	20.7%	32.1%	
	50歳代	27.6%	17.9%	*
	60歳代以上	17.2%	6.6%	**
開業時の経営形態				
紀美野町n=29 全国n=21,742	法人企業	20.7%	38.3%	*
	個人企業	79.3%	61.7%	*
開業費用				
紀美野町n=29 全国n=20,698	500万円未満	62.1%	37.8%	***
開業時の平均従業者数（本人含む）				
紀美野町n=28 全国n=21,141		2.9人	3.7人	
開業時の従業員時間数				
紀美野町n=27 全国n=6,661	35時間未満/週	44.4%	15.4%	***
	50時間以上/週	29.6%	56.8%	***

資料：紀美野町はアンケート調査結果（2023.5～6 実施）により作成。また、全国は、日本政策金融公庫研究所の新規開業実態調査結果をもとに作成。

注：1）アンケート対象は、紀美野町観光協会及び NPO 法人きみの定住を支援する会の移住事業者。

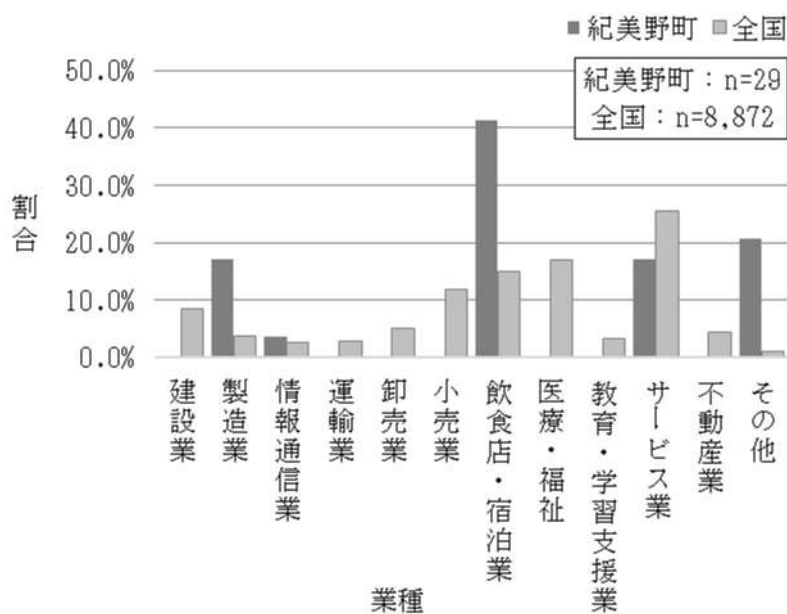
2）新規開業実態調査結果は、公表された個票（2008 年～2020 年）において紀美野町調査と同じ調査項目が存在する年次調査結果を累計して作成。

3） χ^2 検定 ***、**、* は、それぞれ有意水準 1%、5%、10%を示す。

4）開業時の平均従業者数（本人含む。全国は 2008 年～2020 年）について t 検定を行ったが、有意差は認められなかった。

(2) 開業業種

- ・紀美野町は、全国に比べ「飲食業・宿泊業」が多い。アンケート対象が観光協会会員ということもあるが、農山村は農産物を生産する農業の現場であり、「食」と関連が深い飲食店・宿泊業や食品製造業の創業が多くなっていると推測される。また、紀美野町の「その他」は、兼業を行う事業者である。



図Ⅱ. 1 開業動機

資料：表Ⅱ. 1 に同じ。

注：1) 全国は、個票が公表されている 2016 年～2020 年を累計して作成した。

2) 紀美野町の「その他」は、建設業と製造業(1)、建設業と農林業(1)、製造業と飲食店・宿泊業と農林業(1)、製造業と農林業(2)、小売業と飲食店・宿泊業(1)の兼業である。
() 内は創業者数。

(3) 開業動機

- ・開業動機をみると、全国は多い順に、「自由に仕事をしたかった」が 54.4%、「仕事の経験・知識や資格を生かしたかった」が 50%、「収入を増やしたかった」が 49%、「事業経営という仕事をしたかった」が 38.8%となっているのに対し、紀美野町は、「自由に仕事をしたかった」が 51.7%、「仕事の経験・知識や資格を生かしたかった」、「自分の技術やアイデアを事業化したかった」が 37.9%に次いで、「時間や気持ちにゆとりが欲しかった」が 34.5%（全国は 17.1%）、「趣味や特技を生かしたかった」が 31%（全国は 8.2%）となっている。
- ・全国と紀美野町は、両者とも仕事の自由度やこれまでの経験・知識や資格を生かすことを重視しているが、収入の増加、時間や気持ちのゆとり、趣味や特技の項目に有意差が認められた。
- ・紀美野町における移住者の創業は、収入の増加を求めるといより、時間や気持ちのゆとりを重視し、移住者がこれまで培ってきた経験や技術などに加え、趣味や特技も生かした幅広い自己実現を目指したものである。

表Ⅱ. 2 開業動機

	紀美野町 n=29	全国 n=14,042	検定
自由に仕事をしたかった	51.7%	54.4%	
仕事の経験・知識や資格を生かしたかった	37.9%	50.0%	
自分の技術やアイデアを事業化したかった	37.9%	33.3%	
時間や気持ちにゆとりが欲しかった	34.5%	17.1%	**
趣味や特技を生かしたかった	31.0%	8.2%	***
地域や社会の役に立つ仕事をしたかった	20.7%	30.1%	
収入を増やしたかった	17.2%	49.0%	***
事業経営という仕事をしたかった	17.2%	38.8%	**
年齢や性別に関係なく仕事をしたかった	6.9%	13.4%	
就職を希望したが適当な勤め先がなかった	3.4%	6.8%	

資料：表Ⅱ. 1 に同じ。

注：1) 表Ⅱ. 1 の注 3) に同じ。

2) 複数回答(全国は、上位 3 つまで)。

3) 選択肢 6 番目の全国は、「社会の役に立つ仕事をしたかった」。

Ⅲ. 2. 2 紀美野町における移住者の創業の現状と地域との関係（UターンとIターンの比較から）

(4) 移住者の創業の現状と地域との関係

- ・現在の「平均従業者数（本人含む）」をみると、Iターン事業者（以下、Iターン）は2.8人から4.0人に、Uターン事業者（以下、Uターン）は3.0人から4.5人に増加しており、両者とも開業時から1.5倍に増加し、雇用者を増やしている。
- ・「現在の事業規模」をみると、全体の約6割が、売上高500万円未満の小規模な経営を行っている。一方、約3割の事業者に1千万円以上の売上がある。
- ・「事業収入が経営者本人の定期的収入に占める割合」をみると、約半数（Uターンは66.7%）が、創業した事業の収入よりも、事業以外の収入が多くなっており、兼業で収入を得ている事業者もいる。
- ・「事業の拡大指向」は、Uターンは83.3%と多くっており、Iターンは45.5%で有意差が認められる。高齢世代の創業が多いIターンの内訳をみると、半数以上が現状維持や事業の縮小を指向している。

表Ⅱ. 3 移住者の創業の現状と地域との関係

項 目		全 体 n=29	Iターン事業者 n=23	Uターン事業者 n=6	検定
平均従業者数(本人含む)	開業時	2.9人	2.8人	3.0人	
	現在	4.1人	4.0人	4.5人	
現在の事業規模	500万円未満	63.0%	61.9%	66.7%	
	1千万円以上	33.3%	33.3%	33.3%	
事業収入が経営者本人の定期的収入に占める割合	50%未満	53.6%	50.0%	66.7%	
今後の事業方針	拡大したい	53.6%	45.5%	83.3%	*
創業についての満足度	かなり満足・やや満足	72.4%	73.9%	66.7%	
事業による地域への愛着や想い	強まった・やや強まった	65.5%	69.6%	50.0%	
地域資源の利用	利用している	65.5%	65.2%	66.7%	
事業による地域への影響や地域住民との関係構築（複数回答）	地域のPR	74.2%	78.3%	50.0%	
	地域内の取引	51.7%	52.2%	50.0%	
	来訪者の増加	51.7%	43.5%	83.3%	*
事業による地域外の人とのネットワークの構築（関係人口）	できた	71.4%	68.2%	83.3%	

資料：表Ⅱ.1 の紀美野町調査に同じ。

注：1）表Ⅱ.1 の注3）に同じ。

2）「Iターン事業者」のうち、「平均従業者数（本人含む）」、「事業収入が経営者本人の定期的収入に占める割合」、「今後の事業方針」、「事業による地域外の人とのネットワークの構築（関係人口）」のn値は「22」、「現在の事業規模」のn値は「21」である。

3）開業時および現在の平均従業者数（本人含む）にt検定を行ったが、有意差は認められなかった。

(5) 創業してよかったこと

- ・創業してよかったことについては、Iターンは、「仕事の経験・知識や資格を生かした」、「自分の趣味や特技を生かした」が 65.2%、「自分の技術やアイデアを試せた」が 56.5%、「自由に仕事できた」が 47.8%であるのに対し、Uターンは、「地域や社会に役立つという充実感がある」、「農村の地域資源を生かした」が 66.7%、「仕事の経験・知識や資格を生かした」、「自分の趣味や特技を生かした」、「自分の技術やアイデアを試せた」、「自由に仕事できた」、「農村の環境を生かした」がいずれも 50%である。
- ・Uターンは、創業したことにより地域や社会に役立つという充実感があること、農村の地域資源を生かしたことをIターンよりも評価している。

表Ⅱ. 4 創業してよかったこと

項 目	全 体 n=29	Iターン事業者 n=23	Uターン事業者 n=6	検定
仕事の経験・知識や資格を生かした	62.1%	65.2%	50.0%	
自分の趣味や特技を生かした	62.1%	65.2%	50.0%	
自分の技術やアイデアを試せた	55.2%	56.5%	50.0%	
自由に仕事できた	48.3%	47.8%	50.0%	
地域や社会に役立つという充実感がある	34.5%	26.1%	66.7%	*
事業を始めて家族（地域）との絆が深まった	34.5%	34.8%	33.3%	
農村の地域資源を生かした	34.5%	21.7%	66.7%	*
就職するよりもよかったと感じる	31.0%	30.4%	33.3%	
農村の環境を生かした	27.6%	21.7%	50.0%	
時間や気持ちにゆとりができた	24.1%	21.7%	33.3%	
期待したような事業経営ができた	24.1%	21.7%	33.3%	
農業が楽しくできている	17.2%	17.4%	16.7%	
年齢や性別に関係なく仕事できた	10.3%	4.3%	33.3%	
収入が予想通り増えた	6.9%	4.3%	16.7%	**

資料：表Ⅱ. 3 に同じ。

注：表Ⅱ. 3 の注 1）に同じ。

紀美野町なりわい創業実態調査

令和 5 年 5 月

若者世代が暮らしていくためには、そこに求める仕事があることが必要です。

これまで農村には働く場所がなく、都市部の企業、市街地の事業所や商店などに職を求めることが一般的だと考えられてきました。そのような中でも農村で自ら事業を始める方がおり、最近の田園回帰では、農村へ移住して企業等へ就職する方、農業や起業（継業）する方など、様々な「なりわい」が見られます。近年の「環境」や「食」への関心の高まり、また IT（情報技術）の進歩などにより、仕事を取り巻く環境が変化していると感じます。

本アンケート調査は、農村において起業（継業）した事業者の実態調査を行い、農村で新しく事業を始める方向性や課題の分析により研究面で貢献し、これから農村で暮らしたいと希望する若者の「なりわい創り」や行政の支援策に資することを目的に実施します。

御回答いただいたアンケート結果につきましては、個々の調査票を公表することや、個人が特定できる形で引用することはありません。本アンケートの趣旨を御理解いただき、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

アンケート実施主体：和歌山大学食農総合研究教育センター、紀美野町産業課、
同まちづくり課、NPO 法人きみの定住を支援する会

1 起業者の基本情報

1. 男性 2. 女性

1. 29 歳以下 2. 30 歳代 3. 40 歳代 4. 50 歳代 5. 60 歳代以上

1. 建設業 2. 製造業 3. 情報通信業 4. 運輸業 5. 卸売業 6. 小売業
7. 飲食店・宿泊業 8. 医療・福祉 9. 教育・学習支援業 10. サービス業 11. 不動産業
12. 農林業 13. その他（ ）

1. 法人企業 2. 個人企業（開業届を提出）

1. 5 年未滿 2. 5~10 年未滿 3. 10 年~15 年未滿 4. 15~20 年未滿 5. 20 年以上

1. 紀美野町内（町内に定住）
2. 紀美野町内（町外に転出してUターン）
3. 紀美野町以外の和歌山県内（Iターン）
4. 和歌山県外（Iターン）

問7 開業動機（複数回答）

1. 事業経営という仕事がしたかった
2. 家業または他の人の事業を引き継いだ
3. 収入を増やしたかった
4. 自由に仕事がしたかった
5. 時間や気持ちにゆとりが欲しかった
6. 地域や社会の役に立つ仕事がしたかった
7. 就職を希望したが適当な勤め先がなかった
8. 農業に関係する仕事がしたかった
9. 自分の技術やアイデアを事業化したかった
10. 農村の地域資源を生かしたかった
11. 趣味や特技を生かしたかった
12. 農村の環境を生かしたかった
13. 仕事の経験・知識や資格を生かしたかった
14. 年齢や性別に関係なく仕事がしたかった
15. その他（ ）

1. 会社や団体の常勤役員 2. 正社員・正職員（管理職） 3. 正社員・正職員（管理職以外）
4. 非正社員 5. 学生 6. その他（ ）

1. 250 万円未満 2. 250～500 万円未満 3. 500～1000 万円未満
4. 1000 万円以上

1. 35 時間未満/週 2. 35~50 時間未満/週 3. 50 時間以上/週

家族従業員（ ）人、 常勤役員・正社員（ ）人、
パートタイマー・アルバイト（ ）人、 派遣社員・契約社員（ ）人
合計（ ）人

1. 資金繰り、資金調達 2. 顧客・販路の開拓 3. 財務・税務・法務に関する知識不足
4. 従業員の確保 5. 仕入先・外注先の確保 6. 特にない 7. その他（ ）

1. 100 万円未満 2. 100～500 万円未満 3. 500～1000 万円未満 4. 1000 万円以上

1. 35 時間未滿／週 2. 35～50 時間未滿／週 3. 50 時間以上／週

家族従業員（ ）人、 常勤役員・正社員（ ）人、
パートタイマー・アルバイト（ ）人、 派遣社員・契約社員（ ）人
合計（ ）人

1. 25%未満 2. 25~50%未満 3. 50~75%未満 4. 75~100%未満 5. 100%

1. 勤労収入 2. 不動産収入 3. 年金 4. その他 ()

1. 25%未満 2. 25~50%未満 3. 50~75%未満 4. 75~100%未満 5. 100%

1. 資金繰り、資金調達 2. 顧客・販路の開拓 3. 財務・税務・法務に関する知識不足
4. 従業員の確保 5. 仕入先・外注先の確保 6. 特にない 7. その他（ ）

1. 取引（購入） 2. 取引（販売） 3. 経理処理 4. 広報活動 5. 求人活動
6. その他（ ）

1. 関心がある () 2. 関心がない

IV 起業（継業）の満足度・地域とのかかわり

問24 起業（継業）してよかったこと（複数回答）

- | | |
|---|--|
| 1. 期待したような事業経営ができた
3. 収入が予想通り増えた
5. 時間や気持ちにゆとりができ
7. 就職するよりもよかったと感じる
9. 自分の技術やアイデアを試せた
11. 自分の趣味や特技を生かせた
13. 仕事の経験・知識や資格を生かさせた
14. その他（ ） | 2. 事業を始めて家族（地域）との絆が深まった
4. 自由に仕事ができる
6. 地域や社会に役立つという充実感がある
8. 農業が楽しくできている
10. 農村の地域資源を生かせた
12. 農村の環境を生かせた
13. 年齢や性別に関係なく仕事ができる |
|---|--|

問 25 起業（継業）についての総合的な満足度

1. かなり満足 2. やや満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. 不満
- 理由：()

問 26 今後の方針

1. 拡大したい 2. 現状維持でよい 3. 縮小したい
- 理由：()

問 27 事業への地域資源（農林水産物など）の利用

1. 利用している ()
2. 利用していないが、今後利用したい
3. どちらともいえない 4. その他 ()

問 28 事業による地域との関係（複数回答）

1. 集客により地域への来訪者が増えた
2. 地域の人と取引関係ができた
3. 事業をすることで地域の PR ができた 4. その他（ ）

問29 事業を始めたことにより地域への愛着や想いは強まりましたか？

1. 強まった ()
2. やや強まった
3. どちらともいえない 4. 変わらない

問30 事業を始めたことにより地域外の人との定期的なつながりやネットワーク^注ができましたか？

1. できた（注：単なる商取引は除く）
 内容：
 2. できていない

アンケートは以上になります。御多忙のところご協力いただきありがとうございました。

◎お問い合わせ：和歌山大学食農総合研究教育センター 阪井研究室

TEL: 073-457-7126 e-mail: sakaik@wakayama-u.ac.jp